

印刷資本家組合幹部に抗争せる

中屋の同志を勝たせろ!!

九時間制即行、賃銀値上をまげんて

百五十余名罷業を決行す

東京府下大井町中屋印刷所の吾等従業員は、十何年のながき忍従の徳をすて、遂に會社と闘争を開始した。

吾等としてこれ以上に忍従するには、會社の態度はあまりに積暴千萬なのだ。その故に吾等の生活はあまりに惨ぢ目であるのだ。こゝに至つて最早は忍従にあらぬのでなく、闘争にあるのだ。吾等は断じて闘争する。

社長鈴木正平氏は古くから到るころにて「労働者の健康に對する愛、深き親切」が「労働者の待遇を留意する上」に於ては、同業種業、志業等の労資間の争議、軋轢は起らない。よろしく資本家は反省すべし」なき、筆や口によつて主張し、あつはれ温情主義者を以て自ら任じ、他人も亦しかく信じてゐるほかに、有名な温情主義者である。が災難なのは吾等従業員である。吾等に與へられた彼の温情施設なるものに、いつたいせんたい、何があるか。毎月一回社側に厭はれてくる講師の美談なきでは厭はばいにならないのだ。吾等の見るところ、彼の温情なるもの正證は、職長たちに恩を賣つて「従業員を威嚇に働かせる」といふもの以外ではない。

吾等は知つたのだ。温情主義が如何にベチンであり、胡麻化してあるかといふことを。そして社長鈴木正平氏こそ、そのベチン師、胡麻化師の典型的なものであると云ふことを。

蒲田の三省堂印刷所は神田から移轉した時、労働時間を八時間半に短縮し、なほ電車賃十五錢、蒲田手當六錢を毎日支給し、今日ではそれは本給にくり入れられてゐるのである。また目黒の富士印刷所は八時間制であり、その他、大崎の小島印刷、萬月堂、三成社なき十時間以下に短縮してゐるのである。しかるに中屋印刷所は、京橋から府下大井町へ移轉したとき、社員には電車賃を支給し、印刷物運搬のためにオートバイ及び自動車を購入したほかに、府下に移轉した不便を知りながら、吾等従業員には電車賃どころか、「明日から大井へ通へ」の一言で済ましてしまつたのだ。また今年の正月には、昨年諒問の故に遠慮した仕事始めの一日分を、づうくしくも儲けようとした等、吾等の忍従をいゝ氣にしてつけ上る、以上の如き會社の無情さ、その故に慘ら目にされた吾等の生活は、つひに吾等を驅つて闘争へ起たしめたのである。

これでもなほ我等は忍従すべきであるといふか。
しかし乍ら 吾等はあくまで譲讓の態度をもつて、社側の反省にまつべく、當然過ぎる吾等の要求を、なほ譲つて六月十八日左の

- 一、労働時間を一時間短縮せられたし
- 二、賃銀を二割増給せられたし

の二項を噴願したのである。しかるに會社は吾等の譲讓を知らず、理非理を論ぜずに拒絶して來た。こゝに於て吾等はつひに最後の決意をなし、あくまでも抗争すべく、直ちに噴願書を要求書として

- 一、この争議による解雇者を出さざること

の一項を加へて會社に叩きつけた。

親愛なる同志諸君!!

理解ある市民諸君!!

吾等は吾等の正しき主張を降服させはしない。

吾等は吾等の正しき主張の勝利する日まであくまで戦ふことを宣言する。

この戦ひの勝利のためにあらゆる物質的、精神的應援を送られんことを。

一九二六年六月

中屋印刷所争議團
 東京印刷工組合京濱支部

東京府下大井町寺ノ下一四三一

東京印刷工組合

東京市京橋區木挽町二ノ十、東京市小石川區西丸町十九

全國労働組合自由聯合會

全國印刷工聯合會

應援